

確認プリント解答【中学校2年生】数と式

①	(1) $3y$	(2) $-4x + 8y$	(3) $5x - y$
	(4) $2y$	(5) $2ab$	

②	(1) 18	(2) $y = 2x - 5$	(3) $y = \frac{-x+1}{4}$
	(4) $h = \frac{s}{a}$	(5) $a = \frac{2S}{h}$	

③	(1) $x = 5, y = 5$	(2) $x = \frac{1}{2}, y = \frac{3}{2}$	(3) $x = 5, y = 13$
	(4) $x = 4, y = 1$	(5) $x = 2, y = -3$	

④	(1) $\frac{b}{a} \quad g$	(2) ア
---	---------------------------	----------------

⑤	$n + 1$
---	---------

⑥	(1) $x - y = 3$	(2) エ
---	-----------------	----------------

⑦	(1) ウ	(2) ウ	(3) $\begin{cases} 3x + 2y = 460 \\ 4x + 3y = 630 \end{cases}$
---	----------------	----------------	--

⑧	オ	$500x + 300y = 1900$
---	------------	----------------------

⑨	ウ
---	------------

⑩	ウ	$200x + 120y = 2160$
⑩	イ	$x - y = 6$
別解	エ	$200x - 120y = 1440$

⑪	(1)	(解答例1)
		$4(n - 3)$ $n - 3$ は整数だから、 $4(n - 3)$ は4の倍数である。 したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも4の倍数である。
	(解答例2)	
	$4n - 12$	$4n$, 12 が4の倍数で、4の倍数の差は4の倍数だから、 $4n - 12$ は4の倍数である。 したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも4の倍数である。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・アを選択し、4, 2 のいずれかを解答 ・イを選択し、2 と解答

(解答例1)

イを選択し、

通常料金 a について、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを表す式に、 a が含まれていないので、通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

⑫

(解答例2)

イを選択し、

通常料金 a について、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算過程で a がなくなるので、通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

(1) ① $2n+3$ ② 3

(3) エ

(2)

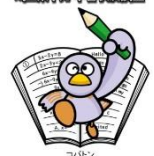
(解答例)

$$5(2n + 5)$$

$2n + 5$ は中央の奇数だから、 $5(2n + 5)$ は中央の奇数の5倍である。

したがって、連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍である。

⑬



確認プリント解答【中学校2年生】図形

① エ

② イ

③ ア

④ (1) ウ (2) 100度

⑤ ア

⑥ エ

⑦ オ

⑧ イ

⑨ イ

⑩ ウ

⑪ イ

⑫ エ

⑬ ウ

⑭ ア

⑮ 2組の辺とその間の角

⑯ ① $\triangle ABD$ ② $\triangle ACE$

⑰ ア

⑱ イ

⑲ エ

⑳ ウ

㉑ ア

②②	(1) $AC = BD$	(2) ア
----	---------------	-------

②③	オ
----	---

②④	$AC \perp BD$
----	---------------

②⑤	エ
----	---

②⑥	① $\triangle ABC \equiv \triangle DBC$	② $AD = BC$
----	--	-------------

②⑦	① $\angle ABD = \angle CBD$	② $\angle ADB = \angle CDB$
----	-----------------------------	-----------------------------

②⑧	(1) ア
	(2)(解答例)
	②、③より, $OA + AE = OC + CF$
	(3)
	(解答例1)
	四角形ABCDが正方形ならば, 四角形EBFDはひし形になる。
	(解答例2)
	四角形ABCDが正方形ならば, 四角形EBFDは対角線が垂直に交わる平行四辺形になる。

②⑨	(1) 2組の辺とその間の角	(2) イ
	(3)	
	(解答例1)	
	四角形ABCDがひし形ならば, $AF = CE$ になる。	
	(解答例2)	
	四角形ABCDが $AB = BC$ の四角形ならば, $AF = CE$ になる。	
	(解答例3)	
	四角形ABCDが対角線ACとBDが直交し, BDがACを二等分する四角形ならば, $AF = CE$ になる。	

確認プリント解答【中学校2年生】関数

①	(1) $y = 3x + 5$	(2) $y = -3x + 20$
---	------------------	--------------------

②	(1) 3	(2) $y = 5$	(3) $y = 3x + 2$
	(4) 6		

③	(1) 5	(2) イ
---	-------	-------

④	エ
---	---

⑤	オ
---	---

⑥	エ
---	---

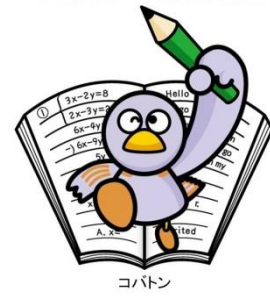
⑦	エ
---	---

⑧	イ
---	---

⑨	ウ
---	---

⑩	エ
---	---

⑪	オ
---	---



⑫ $1 \leq y \leq 5$

⑬ エ

⑭ イ

⑮ (1) ア (2) 400m

⑯ ウ

⑰ ウ

<p>(1) ア</p>	<p>(2) ① 2 ② 4</p>
<p>⑱ (3) (解答例1) 列車アと列車エの2つのグラフについて、y の値が6のときの x の値の差を求める。 (解答例2) 列車アと列車エの2つのグラフについて、y 座標が6のときの2点間の x 軸方向の距離を読む。</p>	
<p>(1) エ</p>	<p>(2) (アを選択した場合) 説明 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める (イを選択した場合) 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係を一次関数のグラフにして表して、その交点の座標を読み取り、使用年数の値を求める。</p>

確認プリント解答【中学校2年生】資料の活用

① イ

② (1) オ (2) ウ

③ ウ

④ (1) $\frac{3}{8}$ (2) $\frac{1}{4}$

⑤ (1) $\frac{1}{36}$ (2) $\frac{5}{36}$

⑥ (1) イ (2) $\frac{3}{5}$

⑦ $\frac{2}{13}$

(1) $\frac{1}{12}$

⑧ (2)
 (解答例)
 全校の回答用紙90枚をくじにする場合は全部で90通りの出方があり、Fが選ばれるときは、場合の数が27通りなので確率はである。また、1年生の回答用紙50枚だけをくじにする場合は全部で50通りの出方があり、Fが選ばれるときは、場合の数が20通りなので確率はである。2つの場合の確率を比べると、よりの方が大きい。よって、全校の回答用紙90枚をくじにする場合よりも1年生の回答用紙50枚だけをくじにする場合の方がFが選ばれやすい。

埼玉県学力・学習状況調査



コバトン